

## 女子部高等科 英語

### 「英語でのスピーチ：若者の政治参加」

宇田川 美沙

「英語が好き」「英語でスピーチをしてみたい」という高等科2年から高等科3年の4名が集まり、「日本の若者の政治参加について」というテーマで、英語での発表を行った。生徒発案の企画であったため、生徒たち自身が考えながら学習すること、英語学習の一環としてプレゼンテーションの技術を学ぶことの2点に主眼を置きながら、学習と準備を進め、口頭発表を行った。

#### 1. はじめに

先述した通り、本発表は英語での発表を行いたいという生徒の発案で始まった。英語でのスピーチやプレゼンテーションを準備する過程で、より自然な英語の表現や、論理的な文章の構成方法といった発展的内容を学習した。また、多くの英語のプレゼンテーションを参考にすることによるインプット量の増加や、原稿を暗唱することで繰り返し英語を練習することでアクティブボキャブラリーが増えスピーキング力の向上につながる、という効果も期待できるものであった。

#### 2. 学業報告会までの学習と準備

##### (1) 発表の企画

英語に関することを学業報告会で取り組みたい、という生徒が中心となって「英語でのスピーチ」という企画を作成した(図1)。発案者を中心にメンバーを募り、最終的には4名で学習を進めた。

##### (2) 発表までのスケジュール作成・テーマの決定

すでに学業報告会を経験している生徒が集まったため、発表までのスケジュールの作成を生徒たちが中心となって作成した。夏休みまでには「日本の若者の政治参加」というテーマを選んだ。発表のテーマを探し始めた当初は、「社会問題」「環境問題」などといった意見も出されていたが、メンバー全員の関心があることが日本の政治の問題、とくに日本の投票率の低さであったため、「日本の若者の政治参加」というテーマを選んだ。当時はニュースで「ポピュリズム」という言葉をよく耳にしていたため、民主主義と選挙の関係、ということにも生徒の関心が向いていたようである。

##### (3) 発表内容の準備

テーマを決めた後、発表内容の構成の大枠を決めた。スピーチやプレゼンテーションは、聴衆に訴えかけたいことを伝えるために構成される、ということたびたび確認しながら、プレゼンテーションの流れを考えた。話し合いを重ね、自分たちの経験から、教育を主張の中心に据えることとなった。①日本の若者の投票率の現状、②民主主義の歴史、③海外の主権者教育の事例、④グループとしての提案や主張、という大きな流れを決め、各自で担当する部分の調べ学習を行った。ある程度内容がまとまったところで、発表内容が客観的に整合性のあるものにするために、社会科の教員に発表内容について意見を求めた。

##### (4) プレゼンテーションの研究

発表内容がまとまってきたところで、様々なプレゼンテーションを見ること、文献を通して、プレゼンテーションの技術を研究した。主にはTED Talks から、生徒や教員が発表の参考になりそうなプレゼンテーションを紹介し合ってプレゼンテーションを見た。プレゼンテーションを見た後に、言葉遣いやジェスチャー、話すスピードなど、参考になる点をメンバーで復習し、自分たちのプレゼンテーションの参考にした。加えて、プレゼンテーションの基本や技術についての文献を読み、論理的な話の構成方法などを学んだ。これらは、生徒の原稿をひとつにまとめる際や日本語の原稿を英語にする際に、参考とされた。

##### (5) プレゼンテーションの原稿作成・スライドの作成

最初に日本語で発表内容をまとめ、原稿を作成した。その後、(5)で得たプレゼンテーションを作成する際の

知識を参考に、原稿を英語にした。自然な英語の表現に変えたり、強調したい部分は表現を換えて繰り返したりと修正を加えて、本格的な練習を始めた。

プレゼンテーションの際に使うスライドを作成する際は、日本語の字幕を付ける工夫をした。これは発表の内容が、民主主義や投票率といった内容を含むため、英語が分からない人でも内容を追えるようにと考えたからである(図2)。

#### (6) プレゼンテーションの練習

原稿を覚えながら、(6)のプレゼンテーションの研究から学んだ、話すスピード、抑揚のつけ方、ジェスチャー、アイコンタクト、ステージの使い方、などを実践できるように繰り返し練習を行った。英語らしい話し方ができるように、発音や抑揚にもこだわった。何度もグループで発表を見合い、またステージでの練習を録画し、良かった点、改善点を確認した。並行して(6)のプレゼンテーションの研究も行い、プレゼンテーションの映像を見ながら、発表の参考にした。

### 3. 報告の内容

以下に発表内容を要約して記す。

#### How to Change Our Future?

##### (1) 日本の若者の投票率とシルバーデモクラシー

What do you imagine when you hear about politics? Why must we take part in election? You may think it's impossible to find answers to these question.

Why do we observe a low turnout of young generations? One of the problems is what's called 'silver democracy'. In aging societies, some politicians take policy for senior citizen to collect votes. I think policies for young generations are also necessary in a community. However, the problem here is that the young generations are not interested in their future. What I want to tell everyone is that voting is one of the important keys to change our society. To realise this fact, let's consider our democracy system.

(日本の若者の投票率は低さには様々な問題があるはずですが、私たちはそのひとつの原因として「シルバーデモクラシー」に着目しました。シルバーデモクラ

シーは、少子高齢化が進む社会において、票を集める目的で多数派である高齢者に偏った政策をとる政治家がいるという問題です。私は、本当の問題は若者たちが日本の未来に対して関心が薄いことにあると思います。選挙に参加することが社会を変えるためには重要だという事実を理解するために、私たちは民主主義のシステムを知る必要があります。)

##### (2) 日本の民主主義の成り立ち

So in the first place, what is democracy? Democracy is one of a political system. In the democratic political system, people think 'we have the right to decide what our country is going to be'. On the other hand, there are some autocratic countries around the world. In an autocratic political system, only a few people have the political power to make decisions.

Here is the point, the democracy of Japan is different from that of other countries. In the case of France or America, in the past, people fought for themselves. The most typical example of this was the French Revolution in 1789. Japan has so-called post-war democracy which was given by the United States, after Japan had been defeated in the World War 2. As a result of indirect rule by the US, post-war democracy has begun. That suggests the base of Japanese democracy is more vulnerable, than other democratic countries. We need to have awareness that we are the one who is building our democratic nation. So what can we do to make our democracy more stable?

(そもそも民主主義とは何でしょうか？民主主義とは、政治体系のひとつで、民主主義の政治体制では、「国のあり方は国民が決める」と考えます。この民主主義と反対の関係性にあるのが、特定の個人、党派などが政治権力を握る独裁制です。フランスやアメリカでは、かつて民衆が自ら政治的自由の獲得のために立ち上がった歴史がある一方、現在の日本のいわゆる戦後民主主義は、民衆の間で生まれたものではありません。第二次世界大戦後に米国による間接統治を受けた結果作られたものです。そのため日本の民主主義の基盤は他国と比べて弱いといえるでしょう。だからこそ私たち自身が「国をつくっているのは私たち

だ」という意識、つまり民主主義の一員であると自覚しなくてはなりません。それでは、私たちには何ができるのでしょうか?)

### (3) 主権者教育

I think that the most effective way to make young generations become interested in politics is to have productive school curriculum from their young age. In my opinion, the most important thing is to understand the structure of the politics as well as the importance of participating in the election. To achieve this, what schools can do?

Let me give you some examples. In America, students are trained to be active in giving self-assertion. This helps them to be more confident with themselves about having their own opinion. In the UK, citizenship education is an official subject in school. They learn about the responsibility of being one of the citizens. And more in Sweden, school election is held when the election season is coming. Important thing is to make young generations become familiar with politics by education.

Lastly, our school could be a good example of political education. In Jiyugakuen, By making our lunch by ourselves, or organizing an event, we learn to think and make actions by ourselves. We also have an opportunity to share our thoughts. So these allows us to realize that we are one of the members of our school and that we are responsible for each of our actions.

(若者たちを政治に興味を持たせるためには、小さいところからの充実した教育カリキュラムが必要です。その中でも大切なことは、政治の仕組みを理解し、選挙に参加する大切さを知ることだと思います。アメリカの学校教育では、自分の意見を持つことに自信を持ち、自己主張することが大切にされています。、英国では市民教育が取り入れられていて、社会的責任について学んでいます。スウェーデンでは選挙が近くなると、学校選挙が行われています。私たちの学校、自由学園も政治教育のよいひとつの例といえるかも知れません。自由学園では、昼食を自分たちで作り、学生が中心となって学校の様々な行事をつくる経験から、自分たちで考えて行動することを学びます。そして私た

ちには自分たちの考えを共有する場があります。これらのことから、私たちは学校の一員としての自覚を持ち、和たちたちの行動に責任をもてるようになるのです。)

### (4) 市民としての権利と責任

Not many Japanese young people go voting. We could change the society if our opinions and though gather. Probably, many young people in Japan don't think democratic election is special. However, there are people who are forced to choose a dictator as their leader and people who never be able to speak out against to the government.

Please remember, it is special that we can speak out our opinion freely. And it is also special that we have democratic election. We have both, the right and the responsibility as a member of society. This is what I learned through education in my school. And it is what should be taught in education. Young generation, we are the leader of the future society. Mothers, fathers, grandparents, uncles, artis, teachers, all the adults, Please help young people to have interest and participate in politics through education in family and school.

You have the responsibility to support young generation. Don't forget, if our opinions and sheets assemble, we have the power to change the society and our future.

Thank you for listening.

(日本の若者はあまり投票に行きません。一人ひとりの意見や想いが集まればよりよい社会に変えられるかもしれないのに、今のままでいいのでしょうか? 自由で民主的な選挙があることは当たり前だと考えている若者は多いと思いますが、私たちは意見を自由に述べられることと民主的な選挙があることも当たり前なことではないということを忘れてはいけません。私達にはこの社会の一員として、権利と責任どちらも持っています。これがまさに、私が自由学園の教育を通して学んだことです。そしてこのような教育が全ての学校でされるべきだと考えます。私たち若者は、未来の社会のリーダーです。すべての大人のみなさん、家庭や学校での教育を通して若者たちが政治に興味を持って政

治に参加できるように、力を貸してください。大人たちには若者たちをサポートする責任もあると思います。私達の意見と一票が集まれば私達には社会と未来を変えられる力があります。ご清聴ありがとうございます。(。)

#### 4. 終わりに

学業報告会に向けた準備を始めた当初の生徒たちは、スティーブ・ジョブズやマララ・ユスフザイといった有名なスピーチを思い浮かべながら、「英語でスピーチがしたい」漠然と考えているようだった。生徒たちが主体となって準備を進めることは、計画通りにいかないことも多かったが、自分たちでやると決めたことを最後までやり遂げる姿は目を見張るものがあった。

異学年で構成されるグループだったが、それぞれの得意分野を生かして役割を分担し、お互いに褒め合いながら、協力的な雰囲気の中で学習や練習を進めることができていた。報告会当日は、グループ内で発表内容や発表方法を繰り返し議論して作り上げた成果を出すことができたのではないかと感じている。大人数の聴衆を前に、英語でプレゼンテーションをする、という経験が生徒一人一人の自信になったようであった。

自分たちが伝えたいことを英語で伝えるために、主体的に学習をするという経験を「楽しかった」と報告会后に生徒たちが表現していたことが印象的だった。

論理的な主張の組み立て方についての学習については反省が残るが、主体的に学ぶ楽しさ、徹底的に英語を話す練習をする経験などを、今後の学習に生かして行ってほしい。

#### 5. 参考文献

- ・池上彰(2019)『14歳から学ぶ政治入門』マガジンハウス
- ・小川仁志(2018)『5日で学べて一生使える！プレゼンの教科書』筑摩書房
- ・静岡県立中央図書館編(2009)『資料に学ぶ静岡県の歴史』静岡県教育委員会(59章「戦後民主主義」の成立、～日本の民主主義の課題～のみ <https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/data/open/content/3/50/1/ssr4-59.pdf>)
- ・スティーブ・E・ルーカス(2016)『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』SBクリエイティブ
- ・フリー・ザ・チルドレン・ジャパン編(2015)『チャレンジ!キッズスピーチ(英語対訳つき) 1 できるよ!はじめてのスピーチ』大月書店

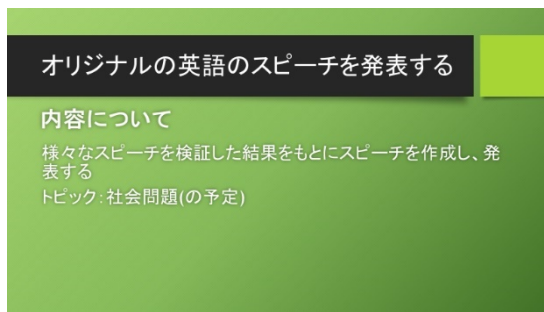


図 1-1

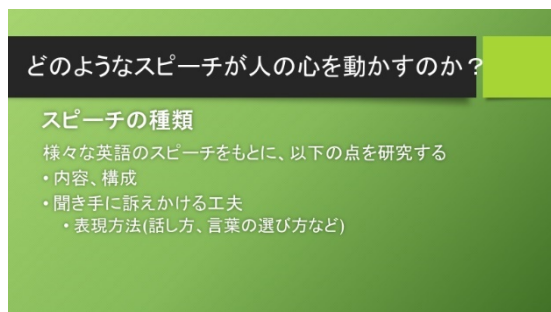


図 1-2



図 2